

設計基礎 A

04

[担当教員]

榎橋修（准教授）

[Teaching Assistant]

今津寛知（A67）、川端梨紗子（A67）、田中惇（A67）

開講年次：学部1年生第3クオーター

建築をデザインする上で必要となる基礎的な造形力を獲得することを目的とし、立体造形制作を通じて、構成力や造形力を習得するとともに、形態や色彩感覚、素材の質感、スケール感覚、平面と立体との関係などの空間造形感覚をそれらを表現する能力を養う。

実習は3グループに分かれて行い、各回テーマを持って実習に取り組む。中間講評を挟んで大きく2つの課題制作を行い、スタディーからプレゼンテーションまでのスキルを身につける。



■課題概要

設計の基礎を学ぶ初学者に分かりやすいように講義と実習を適宜取り混ぜながら行う。課題は中間講評を挟んで前半（実習7コマ）と後半（実習5コマ）から構成する。前半では段階を踏んで模型製作とスタディーのプロセスを学び、後半では前半のスタディーを踏まえ、より自由な建築表現の方法を学ぶ。

パート1 (3限)	パート2 (4限)
1-1 ガイダンス	1-2 座席指定、道具の使い方
2-1 箱を作る	2-2 穴をあける
3-1 スケールと配置を考える	3-2 光の空間を考える
4-1 空間を表す1 (プレゼン)	4-2 提出1 (A2サイズ)
5-1 中間講評と後半課題説明	5-2 再び箱を作る
6-1 光の効果と空間体験	6-2 マテリアルを考える
7-1 空間を表す2 (プレゼン)	7-2 提出2 (A2サイズ)
8-1 講評会	

松本海音「開放」

開放

配図平面図 1:50
12,400 6,000 N

同じ大きさの四角い窓ばかりでツタ井を用い、見る角度、光の当たり方によって印象が変わる空間を表現した。
直線的なルートで曲線を表現し、視点を重ねて形にすることで、柔軟かつ優しい印象を与える。
壁をつらぎ、内部は通り抜けられるようになっているため、外部と隔たりを小さくし、開放感を感じることができる。

11,300 高さ 5,400 開口部図 1:50

松本 海音

1:50

6,500 開口部図 1:50

設計基礎 A

13

特別演習『美しく高い塔、自分が考え出した塔。』

開講年次：学部1年生第3クオーター

[担当教員]

大谷弘明（神戸大学客員教授／日建設計常務執行役員、設計部門プリンシパル）

遠藤秀平（教授）、櫻橋修（准教授）

[Teaching Assistant]

今津寛知（A67）、川端梨紗子（A67）、田中惇（A67）



造形や空間を考えるような授業は高校にはなかったと思うが、皆さん当然ながら小さい頃からものづくりが得意だったはず。いまや建築学科に「公式に」入学された皆さんは空間や建築に直に向き合うことができる。そのことの喜びをまず感じよう。この課題は取り組む本人の自由な発想を前提としている。この日の経験は皆さんの建築の原体験のひとつとなるだろう。以下にいくつかの助言を申し上げたい。

5枚のケント紙が与えられたなら、それを余さず使い切るように工夫する、という直感がはたらかなければいけない。大学生の皆さん、言わわれれば分かったのに、ではない。

できるだけ高く、というテーマを実現するにはケント紙の特性（硬さ、しなやかさ、どのくらいのアールなら曲げやすいか、加工を減らして強度を保つ方法、などなど）を瞬時に把握し、これを前提条件として考えていくことが重要。意匠の裏には常に重力との戦いがある。

周りにいる同期80数人の製作中の動向を（ひそかに）観察することも大事。同じ方向には走らない。みな同志でもありライバルでもある。いかにして集団の一群から抜け出るか（抜け駆けするか）、同じ時間と同じ材料を使ってどのようなオリジナルを生み出すのか、考えてほしい。

競争というと、なにか悪い響きを感じるかもしれない。だが、多くの人たちの中からえりすぐりのアイデアを引き出すために避けでは通れないのが建築コンペの宿命である。

（大谷弘明）

■即日課題

みなさんが神戸大学工学部建築学科に入学されたことを喜ばしく思います。これからよいよ建築の専門教育をみなさんは学ぶことができます。

建築とはオブジェではありません。見るものではなく使うもの、体験するものです。人間を取り巻くすべてが建築といつても過言ではありません。みなさんは今後、驚くべき未知の空間体験をたくさんしていくはずです。

今日は、みなさんと建築をつくるはどういうことなのか、一緒に考えたいと思います。

考えるといっても頭で考えるのではありません。手を動かしながら考えましょう。建築とはこれらの思考と試行の果実なのです。

テーマ『美しく高い塔、自分が考え出した塔。』

頭の中にある塔のイメージをもとに実際の立体造形にしてみましょう。夢に出てくるような美しい塔、体験してみたい展望の空間。これを独力でつくってください。

考えながら形にし、実際に組み上げて、出来上がりをまわりと比べ、感じて、批評しあう、これらのプロセスが建築の設計には大切です。これらの活動すべてが建築的な「体験」の事始めになります。「原体験」となります。

・日 時 10月4日（金）3、4限（13:20～16:40）

・場 所 鶴甲第一キャンパスK棟K401

・時間配分 事前の説明 13:20～13:30

製作時間（150分） 13:30～16:00

講評 16:00～16:40

・材料

目の前に用意されているケント紙（5枚）。

各自が用意した定規、はさみ、テープ、ホッチキスをつかいます。

*製作のスケールは自由ですが出来るだけ大きく高くつくりましょう。ケント紙を余らせてはいけません。

*縮尺自由の人型をつくり、自分のつくった造形の上に置いてください。もし立体に内部を作る場合は、その中を覗けるようにしてください（疑似体験できるように）。

*出来上がった塔は、より大きく見えるように下から見上げて自ら撮影してみましょう。できれば自然光のもとで。



作品制作風景



作品講評風景